

令和元年度 第3回 函館市恵山地域審議会会議録

開催日時	令和2年2月18日 火曜日 15時30分～16時33分		
開催場所	函館市恵山コミュニティセンター 集会室		
内 容	<p>議 題</p> <p>(1) 前回の意見等の集約結果と取組状況について</p> <p>(2) 合併建設計画の執行状況について (審議・答申)</p> <p>(3) 地域振興全般に関する意見交換について</p> <p>その他</p>		
出席委員	<p>◎斉藤勝昭 委員 ○岸本静香 委員 遠藤克司 委員 山口イチ 委員</p> <p>渡部春枝 委員 鳴瀬道幸 委員 及川良子 委員 横手義信 委員</p> <p>成田 力 委員 北村優和 委員</p> <p>(◎会長, ○副会長) (計10名)</p>		
欠席委員	<p>長田征洋 委員 齊藤正三 委員 東福和彦 委員 伊藤麻美 委員</p> <p>中村満幸 委員</p> <p style="text-align: right;">(計5名)</p>		
報道関係	な し		
事務局 出席者 職氏名	恵山支所長 恵山支所地域振興課長 恵山支所市民福祉課長 恵山支所産業建設課長 恵山教育事務所長 恵山病院事務長 企画部計画調整課長 企画部計画調整課主査 企画部計画調整課主事	小笠原 聡 田中 修一 工藤 香苗 小林 竜司 柴田 成 野呂 昭浩 高橋 紀子 坂田 悟 上戸 泰裕	恵山支所地域振興課主査 伊藤 勝利 恵山支所地域振興課主査 中釜 亨 恵山支所地域振興課主任主事 坪 直也 恵山支所地域振興課主任主事 平 浩之 恵山支所市民福祉課主査 野呂 慎哉 恵山支所産業建設課主査 松本 光隆 恵山教育事務所主査 内田 浩之 <p style="text-align: right;">(計16名)</p>
1 開 会 (15時30分)			
田中課長	本日はご多用のところ、ご出席をいただき誠にありがとうございます。 定刻となりましたので、令和元年度第3回函館市恵山地域審議会をはじめさせていただきます。 なお、本日の会議は、地域審議会の設置に関する規程第8条第5項の定めにより、公開としております。		
2 会長あいさつ			
田中課長	はじめに、会議にあたりまして、当審議会の斉藤会長より、ご挨拶をいただきたいと存じます。 斉藤会長、よろしく願いいたします。		
斉藤会長	本日は、委員の皆さまには昨日の雪かき等でお疲れのところ、またお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。 恵山地域審議会は、今回で最後の開催となります。 会議の場では、合併建設計画に関する審議をはじめ、様々な議題や地域振興に関する意見交換におきまして、皆さまから多くの貴重なご意見をいただ		

田中課長	<p>き、深く感謝申し上げます。</p> <p>後ほど、少しお時間をいただき、委員の皆さまの感想などをお聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、本日の議題は、合併建設計画の執行状況についてと、地域振興全般に関する意見交換となっております。</p> <p>さて、本日の議題は、合併建設計画の執行状況についてと地域振興全般に関する意見交換となっております。皆様の忌憚のないご意見・ご提言をお願いいたしまして、開会のあいさつとさせていただきます。</p> <p>齊藤会長ありがとうございました。</p> <p>次に、本日の審議会に企画部の職員が出席しておりますので、ご紹介いたします。</p> <p>企画部計画推進室計画調整課 高橋課長です。</p> <p>同じく、坂田主査です。</p> <p>同じく、上戸主事です。</p> <p>それでは、これより会議を進めて参りますが、進行につきましては、地域審議会の設置に関する規程第8条第2項の規定により、会長が議長を務めることとなっておりますので、齊藤会長をお願いいたします。</p> <p>齊藤会長よろしくお願いいたします。</p>
3 出席委員の報告	
齊藤会長	<p>それでは、会議次第の3、出席委員の報告についてですが、本日の出席委員は15人中10人と、過半数を超えておりますので、地域審議会の設置に関する規程第8条第3項の規定により、会議は成立していることを報告いたします。</p>
4 議 題	
<p>齊藤会長</p> <p>田中課長</p> <p>齊藤会長</p>	<p>次に、議題の(1)「前回の意見等の集約結果と取組状況について」事務局から報告させます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、前回の意見等の集約結果と取組状況についてですが、資料1をご覧くださいと思います。</p> <p>前回、第2回の地域審議会が11月26日に開催しております。その中で及川委員から恵山福祉センターの浴場の低い椅子については、年配の方が使いにくいので高い椅子を増やしてほしいということでもございました。</p> <p>右側の取組状況等というところでもございますが、恵山福祉センターの浴室に高い椅子を増やしてほしいとのご要望ですけれども、低い椅子のご利用希望もありますので、男女それぞれの洗い場9か所に対し、高い椅子6個、低い椅子6個、計12個を置いており、譲り合ってお使いいただくようお願いしておりますのでご理解をいただきたいと思います。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p> <p>ただ今の説明について、何かご質問、ご意見等ありませんでしょうか。よろしいですか。それでは議題の(1)を終わらせていただきます。</p>

<p>斉藤会長</p>	<p>次に、議題の（２）に入らせていただきます。 合併建設計画の執行状況の審議・答申について、前回の地域審議会において市長から諮問がございました。 本日は、前回配付いたしました「資料２」を参考に、皆様からご意見をいただきたいと思っております。 はじめに、事務局から答申書の提出スケジュールなど会議の注意事項について説明をお願いします。</p>
<p>田中課長</p>	<p>それでは、事務局から答申書の提出スケジュールについて説明させていただきます。 昨年１１月の地域審議会において、市長から諮問がありましたので、本日、合併建設計画の平成２７年度から令和元年度まで５年間の執行状況について委員の皆様からご意見をいただき、当審議会においての答申書としてまとめまして、３月中に市長あて提出したいと考えておりますので、よろしくお願いたします。</p>
<p>斉藤会長</p>	<p>ただいま、事務局から説明がありましたが、答申に関する意見としては、計画全体の執行状況に関し、総括的な意見や、個々具体の施策・事業に関する意見など、様々だと思えます。審議会から市への答申につきましても、個別事業の善し悪しの議論ではなく、総括的な観点でのご意見を、皆さまからいただきながら議論していきたいと思えます。 また、今回の諮問・答申の趣旨に直接的に関係のない意見については、別途、通常の見解・要望等として事務局に処理してもらいますので、ご了承をお願いします。 それでは、皆さまからご意見をいただきたいと思えます。 まず始めに、山口委員から発言の申し出がありましたので、山口委員、お願いします。</p>
<p>山口委員</p>	<p>まず、観光の振興について、お聞きいたします。 恵山の観光客がこの数年増加していると報道されました。恵山の山を中心にPR活動に励まれたその成果が出たのは大変うれしいことです。 トレッキングや山登りに来られる観光客が増えたのは想像できますが、ほかにもありましたら教えてください。また、課題や取り組みについても教えてください。</p>
<p>小林課長</p>	<p>観光の振興についてのお尋ねですが、恵山支所では、平成２７年度から登山や植物、野鳥等に関する有識者や地域の方に呼びかけて恵山観光施策ワーキンググループを立ち上げ、会議での提言を参考に、この間登山会の開催や案内看板の設置、トレッキングガイドマップの作成とPR活動を行ってまいりました。 現在、年間約７０，０００人の方が恵山を訪れており、多くは登山やハイキング、公園の散策などを目的に来訪されたものと考えておりますが、最近では自転車でのサイクリングやトレイルランニングのほか、本州の高校生が研修旅行で訪れるなど、訪問される方々の広がりを感じております。 一方、地元ガイドの問合せが多くなり、地元でガイドができる人材の育成が必要となっております。</p>

	<p>平成30年度に恵山ガイドテキストを作成し、観光客に接する機会の多い道の駅スタッフや飲食店に配付をいたしました。今後は、恵山地域の観光資源の磨き上げと、ガイドテキストの内容の充実を図りながら地域の方々等を対象とした勉強会等の機会を設け、地元ガイドの育成を図ってまいりたいと考えておりますので、その際には皆様のご協力を頂きたいと考えております。</p> <p>さらに、函館港に入港するクルーズ客船が、新聞報道でご存じかと思いますが、年々増加しており、来訪する外国人観光客等に向けて多言語表示による案内など施設の充実などを図りながら、引き続きPRに努めてまいりたいと考えております。</p>
山口委員	<p>これからもたくさんの観光客が来ていただけるように、取り組みをお願いします。</p> <p>建設計画については、概ね計画通り進められてきたのではないかと考えております。</p>
斉藤会長	他に何かございませんか。
横手委員	女那川橋の海側なんですけど、現在中州が大きくできていて、何十年前かに一回きれいに土砂をどけて整地したんですけども、中州に林ができていてちょっと危ないんじゃないかという感じになってきたので、函館市の方でそういう計画はあるのかをお聞かせ願いたい。
斉藤会長	<p>横手委員、その件は議題(3)の「地域振興に関する意見交換」の方で言っていたらと思います。</p> <p>今は合併建設計画の執行状況について発言をお願いします。</p>
横手委員	わかりました。
斉藤会長	合併建設計画の執行状況について何かございませんか。
鳴瀬委員	2015年から2019年までの、恵山地域の人口および世帯数の減少状態、ひとり家庭の人口に対する割合とかわかっていたら教えてください。
工藤課長	<p>今手元に用意しているのが、2017年から2021年1月現在の数値でよろしいでしょうか。</p> <p>まず、人口ですけども、市全体の世帯数が2017年の1月末現在で、143,085世帯、うち恵山管内の世帯が1,603世帯です。</p> <p>順序が逆になりましたが、市全体の人口は268,291人、恵山地区では3,217人となっております。</p> <p>比較という事ですので、2021年1月現在の最新値がございまして、こちらでよろしいでしょうか。まず世帯数ですが、市全体で141,691世帯、そのうち恵山が1,536世帯となっております。</p> <p>人口が、市全体で254,982人で、恵山地区が2,804人となっております。恵山地区で400人ほど減少しております。</p>

<p>鳴瀬委員</p>	<p>ひとり世帯の件ですが、今資料がございませんので、後ほどお知らせする形でよろしいでしょうか。申し訳ございません。</p> <p>以上です。</p> <p>間もなく限界集落になるような感じになってきているんだけど、函館市もあと何年か後には20万人切るような予想がありますよね。それに対応するような事はどういうふうに市全体として考えているのか、今ここで皆さんに聞いても詮無いことかもしれないんだけど、どういう思いが、例えば支所長でもいいですから、どういう思いを持っているかという事だけでも聞かせてください。</p>
<p>小笠原支所長</p>	<p>ご質問ありがとうございます。</p> <p>将来的な人口減少に関わっての市の施策、どのように進めていくかというようにお尋ねだと思います。</p> <p>常々市長が言っておりますのが、2040年には人口が16万人くらいになるだろう、新聞報道でも何回かされております。そうなるっていくと、当然少子高齢化も進んで参りますし、今後、市が収入としている税金も減ってくる。新年度、国勢調査が行われますが、人口が減少することによって、国からの交付税も減らされるという事で、人口が減っていくという事は、使えるお金も減ってくると考えられます。</p> <p>そこで、市とすれば色々な施策を展開していかなければならない中で、例えば人件費で言うと職員数を減少していかなければならないんじゃないかと。今20数万人の人口の中で、職員数は今の数がありますが、今後何万人も減っていくとなると、それに見合った職員数にしていかなければならない、そして、歳出規模も、いま一定程度、合併特例債を使った建設がこの度で終了いたしますが、そういうものをどうしていくかだとか、古くなった公共施設をどのように長く生かしていくかであったりだとか、他にも福祉の問題だとか様々な問題がでてきております。</p> <p>ですから市全体とすればそれぞれのセクションで、福祉に関しては今後10年20年先を見据えたもの、教育に関しても10年20年見据えたもの、財政の健全化計画に関しても10年20年見据えたもの、という事で作業を進めているところでございます。</p> <p>ですから、具体的にこうやっていかなければならない、というものは中々お示しできませんが、鳴瀬委員がおっしゃる通り、人口はどんどん少なくなっていくますから、それに見合った行政運営も迫られてくるものと考えております。</p>
<p>斉藤会長</p>	<p>鳴瀬委員よろしいですか。</p>
<p>鳴瀬委員</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>斉藤会長</p>	<p>高橋課長、何か付け加えることはございませんか。</p>
<p>高橋課長</p>	<p>今、支所長の方から話があったとおりでございますが、やはり市長も言っておりますが、人口規模に見合ったまちづくりが大事になるという事で、例えば40年後、もっと先になりますけれども、人口が半分になってしまうと</p>

	<p>いう状況が目に見えております。その時は、北海道で言うと小樽市が同じくらいの12万人くらいの規模なんですね。じゃあ小樽市が貧しい街なのかというと、そういう事ではないと思います。その街の規模にあったまちづくりをすると。それで人口規模にあった賑わいと活気のある街となるよう、今後も市民の皆様と協力し合ってまちづくりをしなければならないと考えておりますので、皆さんと協力し合って知恵を出し合って、まちづくりを行なっていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
斉藤会長	<p>他にございませんか。</p>
遠藤委員	<p>今、様々な意見が、課題もたくさん出てきましたが、恵山地域における建設計画の執行状況につきましては、資料の状況を見ますと漁港の整備、水産関係の振興を始め観光振興や防災対策、地域内交通の確保など、概ね計画通り執行されているのではないかと感じております。</p> <p>これからは先ほどもありましたとおり、人口減少が目に見えて進んでいきますし、それに伴い高齢化もこれ以上のスピードで進んでいくのではないかと感じております。</p> <p>更には、基幹産業であります漁業も、先行き不透明感が増している状況にありますから、建設計画が終了した後も積極的な取り組みを進めていただければ大変ありがたいと思っております。</p> <p>以上です。</p>
斉藤会長	<p>他にございませんか。</p> <p>成田委員、水産関係で何かございませんでしょうか。</p>
成田委員	<p>水産関係で今年度で終わる事業がありますよね。水産多面的機能発揮対策事業が今年度、令和2年で事業終わるんです。5年計画で。うちの組合はその事業で何をやっているかということ、皆さんご存じのとおり天然コンブがすごい被害受けて全然繁茂しない状況をどうにかしなきゃならないという事で、組合員による雑草駆除、母藻散布やっているんですけど、自然相手なもので中々結果が出てきません。この水産多面的事業が令和2年度で終了したあとに、また変わった形であるのか、同じ事業が出てくるのか。その辺の情報がありましたらお願いします。</p>
小林課長	<p>恵山の海を守る会の活動ですね。今おっしゃった活動の内容については、岩盤の清掃であったり、そういう活動をしていただいて天然コンブの繁茂につなげようという内容なんですけれども、今後について、特段どうなるかは正直申し上げて聞いていない状況です。</p>
斉藤会長	<p>成田委員、この活動によって効果というのはあったんですか。</p>
成田委員	<p>効果があったら、5年前ですからもう今頃は結果出てると思うんですけど全然。いろんな所と協力してやっているんですが全然結果が見えないと。</p> <p>先般、北海道新聞の函館版記事で戸井漁協と南茅部漁協が独自の予算出して、補助事業でウニの駆除だとかやる事業をやっていますが、この水産多面</p>

小笠原支所長	<p>的事業というのは水産庁の事業で結構お金も出てるんですよ。これが無くなった後に、函館市も財政的にゆるくないから、例えば道なり国なりのそういう予算でもあったら、何とか獲得して元の海を取り戻したいなと思ってます。</p> <p>確かに東部地域に関しては、水産業が主力産業ということで、先ほど遠藤委員からも水産業に関しても、この頃の地球温暖化であったり、採れるものが採れなくなってきたり、磯焼けの問題や天然コブも不調だと。</p> <p>今、国自体の方も水産業を成長産業にしなければならないということで、色んな補助メニューや支援メニューを出しながら、それに見合った地域において、申請や協議をした中で、いろんな事業メニューの採択をしているという状況でございます。</p> <p>直接担当している部署は、本庁の農林水産部水産課になるんですけども、当然こちらの地域にも来まして、漁協さんを通じながら、いろんなこういうメニューを活用しないかだとか、今言ったような多面的、これは終了するのも知れませんが、これに替わったようなメニューが出てくる可能性も無いとはいえないと思います。</p> <p>今、魚が獲れなくなってきた、つくり育てる漁業ということで、沿岸域で育てられるようなもの、また養殖事業ですね、これらも国が非常に力を入れてきていると。後継者もいなくなってきていますので、身近なところでできる漁業という事に国がシフトチェンジしてきております。</p> <p>ですから今、成田委員からお話のあった、今までやっていた害藻駆除であったり、いろんなメニューがあるんですけども、今後海を守っていくためには引き続き必要な事業だと思いますので、何か情報があった際には、漁協さんを通じて漁業者の従事者の皆さんにお話がいくように、これからも努めて参りますので、よろしくお願いいたします。</p>
斉藤会長	<p>成田委員、よろしいですか。</p> <p>他に何かございませんか。</p> <p>北村委員、今までやってきた中で、これは良かっただとか、これから何かして欲しいだとか、ご意見ありませんか。</p>
北村委員	<p>しいて言えば、これからの恵山、高齢者も大事なんですけども、跡を継いでいく子どもたちについて、ここから高校に通学できない状態、そうすると段々人口が、高齢者は亡くなって減るし、子どもたちは交通の便が悪いので通学に不便だという事で人口が減っていくというのもあるので、そこをなんとか少ない子どもたちを大事にしていって欲しいなと思います。</p>
斉藤会長	<p>おそらく通学補助だとか、そういう部分の事だろうと。今までも議論されてきて、要望もしてきたんですけども、これからも要望としてあげていって欲しいと受け取ったんですけども。</p>
小笠原支所長	<p>北村委員の方から、今後の子どもたちの将来に関する質問だと思います。やはり、子どもたちというのは、次世代を背負って立つこれからの我々の希望の光でもあるという事で、学校の環境であったり、また、子どもの医療の関係であったり、子どもを育てていくための全般的な施策なのかなと考えて</p>

	<p>います。工藤市長においても、子どもたちと地域の触れ合いであったり、コミュニティスクールの活動であったり、色々推進していきたいという事で、新年度予算にもいくつか盛り込まれているようでございます。なかなかこの間議論してきていたこちらから函館市内への通学の問題であったり、色々この間に答弁は差し上げてきたと思うんですけれども、大変な面がやはり距離が離れているとたくさんあるのかなと私自身も承知しております。ただ、色々な難しい問題がある中で、なかなか実行に移せないという、函館市の財政状況であったり、北海道や国のルールがあったりというのものもありますから、その中でも最終的には子どもたちを未来のために育てていく、というのは私自身も北村委員と同じ意見なものですから、何かそういう施策だとかそういうものを地域からも意見が出ていると、なおさら市内から遠く離れた地域ですから、私も承知しておりますので、色々な機会をとらえながら地域の子育ての現状、実情というものを伝えていきたいと考えておりますので、ご理解していただければと思います。</p>
齊藤会長	<p>ありがとうございました。 工藤市長も、子育ての部分で考え方を表明しておりますので、これから期待していきましょう。</p>
鳴瀬委員	<p>高校に下宿で行かせてさ、6万も7万もかかる訳でしょ。そのために、親が引っ越すって話を結構聞いているのさ。だったら増々人口がいなくなる訳でしょ。そういう現状だと思うのさ。通えるうちはいいけど、そうならないと親共々引っ越すというのをたくさん聞いているのさ。</p>
齊藤会長	<p>他にございませんか。 先ほど遠藤委員から合併建設計計画の執行状況について、概ね計画通り執行されているという意見がありましたが、賛同いただけますでしょうか。</p>
横手委員	<p>1件いいですか。 恵山地域も人口減って、家もだいぶ空いているような状況の中で、他町村から恵山地域に来て欲しいというようなプランを提示するような活動を恵山地域として、また函館市として考えていることはあるのですか。</p>
高橋課長	<p>私の所管ではないのですが、移住・定住という事でございますよね。 特に東部4地域に限った特別な策というのは今のところ考えられておりませんので、市全体として移住・定住を促進するために、特に東京圏とか、札幌や東京に流れていくというのが多いものですから、東京の方が逆に北海道など遠いところに移住してもらうようにという取り組みはしておりますので、その中で当然函館市ですから恵山地域も含めてPRしていくという取り組みは行っておりますので、特別に恵山だけとか東部地域だけとは行っておりませんけれども、引き続き移住・定住の対策は行っていくとなっておりますのでご理解ください。</p>
横手委員	<p>それと、よく夏休みの間1か月とか何週間とか来てください、みたいな取り組みをしている町村もあると思うんですよ。そういう形で来てみて、ああ、いいなと。恵山の景色とか海とかを提供できて、恵山を知ってもらうという</p>

	<p>短期間の呼び込みを通して、後につながっていく事を考えられたらいいなと思うんですけれども。</p>
高橋課長	<p>短期間で夏休みなどを使って、例えばお子さんだけが体験するというのもあれば、家族で体験するとか色々なパターンがあると思うんですよね。</p> <p>あと、今ワーケーションというのがあるんですが、都心部の企業さんが夏休みなどを使って、例えばIT企業ですとネットワークで仕事ができるので、函館みたいな観光地で休みながら、その場所で勤務もするというのもいうこともいうことも行われてきてまして、その取り組みは函館市でこれから来年度ですね、進めようとしているところでありまして、移住のきっかけづくりですね、函館に来たくなるようなきっかけづくりを行っておりますので、まあ4地域という事ではないかもしれませんが、色々なかたちで進めていきますので、よろしくお願ひします。</p>
岸本副会長	<p>移住・定住というのは函館市ですよ。ほとんど。西部地区に若い人呼んだり。私たちが求めているのは函館市ではなく恵山地区であって、恵山に定住するという事は、仕事はほとんど漁業であって、漁業研修という形で、船を安くつかえますよ、空き家はありますよ、ここを安い金額で使えますよ、などといった具体的な条件条件で漁業をしませんか、そんなPRが欲しいです。</p>
小笠原支所長	<p>今、副会長がおっしゃったように、例えば自分たちの町に住んでくれると家賃を半分補償するとか、住んでくれることで300万円あげますだとか、人口減少している自治体ではそういう施策をやっているところもございませし、承知しております。</p> <p>恵山地域の魅力というのは、自然であったり、活火山恵山であったり、温泉、そして恵まれた海の幸であったりしますが、移住となればある程度収入を稼がなければならぬ。そうなれば、例えば水産業で言うと無料の船を貸し出すであったり、養殖事業であれば、空き施設を使用してもいいよとか、これは行政ばかりではなく、色々関係する産業にも調整しながらやっていかなければならないという事もあります。</p> <p>私ども恵山支所とすれば、まずは恵山の魅力を発信していくという事がまず一つ大事なのかなと。観光の魅力も同じなんですけれども、住みやすい、例えば気候がいい、空気がおいしい、食べ物がおいしい、などは発信できます、お金をかけなくても。それにプラスアルファ、何か補助だとか、そういう制度ができればもっと良くなる。まずは、まちの魅力、資源の魅力を発信していきながら、少しでも移住・定住につながっていけるように今後努力していきますので、よろしくお願ひします。</p>
斉藤会長	<p>及川委員は15年間やってきましたが、何かありませんか。</p>
及川委員	<p>私は恵山で生まれて、恵山に79年住んでおります。一番恵山を愛しているといっても過言ではありません。恵山のホテルがありましたし、すごく恵山が素晴らしい時がありました。その時を思い出すと、今の恵山は寂しくて残念です。今の旧恵山モンテローザの姿を見た時、本当悲しくなります。初めて委員になった時から進言してきましたが、なんとか解体していただき</p>

い。ガラスが破れて中に動物入ったり、何か被害があるのではないかと、色々な意見を出しました。でも未だにそのままです。

観光も大事です。でもお客さんは環境がいいところに来たいと思います。山も素晴らしい、温泉もあります、海もありますけど、あの環境状態では、私は心配です。あの環境を、なんとかしてモンテローザをどうにかして処分していただきたい。予算を聞きましたら、当時は5千万円でしたが、今は1億円かかるそうです。解体に。費用が1億かかると聞いております。このままの姿では本当に残念でなりません。

それと、恵山に行く道道ですが、日ノ浜から恵山に向かう間、昨日嵐になりましたね、その波が2回通りましたけど、2度波かぶりました。市と関係ない道道ということで、前にも進言しておりましたが、何とか北海道の方に連絡とっていただいて、消波ブロックか何かを入れて、波がかぶらないようにしていただきたい。新しい道路を作ってもらいましたが、その道路に波がかぶるといのは、旧道より怖いことです。そういう身近な事から改善していただきたいのが私の意見です。今後述べる機会がないでしょうから、最後にこれだけを進言いたしまして終わらせていただきます。

斉藤会長

将来の希望として聞いておいていいですか。

小笠原支所長

及川委員から貴重な意見をいただきました。第1回の地域審議会から色々な議論の経過を一番わかっているのは及川委員なのかなと思っております。

2点、旧モンテローザのお話と道道元村恵山線の越波について、お話いただきました。

私も、昨年4月に赴任しましたけれども、モンテローザの跡地はまだ廃墟のままでございます。市の建物という扱いになっておりますので、本庁の建物を管理する部局の方には、取り壊しに関しまして、だいぶ前からお願いをしているところでございます。当時色々積算しまして、5千万円だったものが、1億円、基礎も含めるともっとかかるのではないかと、今になりますと色々な単価も上がっていますので、どのくらいになるかはこの場でお示しできないのですけれども、いずれにしても、この自然の中に使われない施設があるというのは、私も同じ思いでありますので、引き続き関係する部局とお話をしながら、少しでも早く良い環境になるように努めて参りたいなど。

もう一つ、古武井から恵山にかけての道路、北海道が管理している道路でございます。道幅が狭い、海に非常に接近している道路であって、天候によっては、特に風の向きによって越波が見受けられる、それは私も十分承知しております。これまでも道道に関しましては、拡幅のお願いであったり、それに伴う越波がありますので、それらの海岸保全の対策に関しても、関係する北海道であったり、国に対し要望してきているところであります。

地域とすれば、安全安心に生活するための一つのやっぴいかなければならぬ事業だという事も認識しておりますので、こちらの方も引き続き関係する所にきちんと要望して参りたいと考えてますのでご理解願います。

及川委員

波が上がる場所は、新しい道路ができて旧道に入る、その右側1か所なんです、その波が上がる場所が。いつも同じ所です。拡幅はできないのはわかりますけれども、現在波が上がる場所だけでも、一部だけでも消波ブロックでも何か対策をして欲しい。前は、日浦地区でもすごく波が上がっていま

<p>小林課長</p>	<p>した。それで何度か意見が出まして、今は波が上がりなくなりましたね、成田委員。そうですよね。元はすごかったんです、日浦地区は。せっかく新しく拡げていただいた道路がそうなんです。狭い道路じゃないですよ。古武井の新しくなった道路の右側の1か所です。そこがすごく波が上がるんです。狭いところは広くならなくてもいいんです。差し当たり波が上がらないような処置をお願いしたいという事です。</p> <p>支所長の答弁とちょっと被るところがあると思うんですけども、波が上がる箇所はもちろん私どもも存じております。</p> <p>ただ、他の地区についても、越波の状況というのはございます。もちろん恵山地区ばかりではなく、函館市管内では戸井地区にもございますし、その中で函館市全体として、越波に係る部分については、消波ブロックでの対策、また嵩上げでの対策を、北海道の方に毎年お願いしている状況であります。</p> <p>ただ、北海道の方も、北海道全体として見ると、周りをぐるりと海に囲まれている中で、どこを優先するかという問題もあるという事でしたので、不安に思われているのは十分承知はしておりますので、私どもとしましても北海道に引き続き要請していきたいと考えていますので、ご理解いただければと思います。よろしく申し上げます。</p>
<p>斉藤会長</p>	<p>今上がった意見については、地域振興全般に関する意見として、田中課長、整理をお願いします。</p> <p>建設計画の諮問に関しては、この程度でご意見よろしいですか。諮問に対する疑問等はありませんか。</p> <p>それでは、発言いただいた内容に基づき、このあと市長に対して答申することとなりますが、皆様の意見を総括して、合併建設計画5年間の執行状況の答申といたしましては、概ね適切に執行されているということによろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
<p>斉藤会長</p>	<p>それでは、事務局から、答申書の案をお配りいたします。</p> <p><事務局から答申書(案)を各委員へ配布></p>
<p>斉藤会長</p>	<p>ただ今、事務局から、答申書の案をお配りしましたが、「概ね適切に執行されていると認められる。合併建設計画終了後においても、積極的な地域振興の推進を期待する。」ということで、こちらの案のとおり答申することについて、皆さまにお諮りいたします。ご意見、ご異議のある方はいらっしゃいますか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
<p>斉藤会長</p>	<p>ありがとうございます。それではこちらの案を正式な答申とするよう進めて参ります。</p> <p>それでは、これで議題の(2)を終わらせていただきます。</p>

齊藤会長	<p>次に、議題の（３）「地域振興全般に関する意見交換」に入らせていただきます。</p> <p>それでは、先ほど横手委員から質問がありました尻岸内川の件について、小林課長お願いします。</p>
小林課長	<p>尻岸内川の安全管理という事でのご質問と存じます。</p> <p>尻岸内川につきましては、管理は北海道の所管となっております。この数年間、北海道の方でも尻岸内川は過去に何度か氾濫しているという事もありましたので、ここ数年にわたって計画的に浚渫事業を行っていただいております。来年についても、今のところ予定はしているとお聞きしています。もし、浚渫に入る際には、先ほど横手委員が言われましたように、地域の皆さんからの意見も聞いていただきたいと、私の方から北海道に申し述べさせていただいておりますので、ご理解願いたいと思います。</p>
齊藤会長	<p>横手委員、よろしいですか。</p> <p>それでは、はじめに事前に質問事項などをお聞きしましたが、山口委員から発言の申し出がありましたので、山口委員お願いします。</p>
山口委員	<p>これまで何度も出ておりますが、先ほど北村委員がおっしゃった子どもたちの定期代、高校に通っている子どもたちの定期代が３万円以上かかるという事を知人から聞きまして、１人で１か月定期代３万円というのは、すごい金額だなと、初めてわかりました。最後に、なんとか、何回も要望が出ておりまして同じことですが、もう一度お願いしたいと思ひまして、今回提出しました。</p>
柴田所長	<p>先ほどの小笠原支所長の答弁が、実情を最も良く表していたと思います。</p> <p>僭越ながら私から申し上げますと、高校生の通学支援について昨年度、地域審議会において、いただきましたご意見を本庁所管課にしっかりとお伝えしております。本日は、所管課が出席できず誠に申し訳ありませんとのことですが、本庁に確認しましたところ、現時点では、次の説明がありました。</p> <p>「北海道教育委員会の遠距離通学費等補助制度につきましては、平成２５年度の道立戸井高等学校の募集停止に伴う経過措置として５年間にわたり行われてきたところであり、函館市教育委員会といたしましては、北海道教育委員会へ期間の延長要望をいたしましたが、残念ながら見直しには至らなかったところであります。本市におきましては、高等学校等への進学のため、入学準備金や奨学金の貸付けなどを行っており、また、国では授業料に充てるための高等学校等就学支援金の支給を行っていることから、高校生の通学支援につきましては、限られた財源のなかで、市としての子育て支援施策の優先度など、総合的に勘案しますと、現時点では、具体的な支援は難しいものと考えております。」とのことでした。</p> <p>なお、この制度につきましては、全道、全国的な課題として、全道的な市の教育委員会組織により北海道教育委員会に対して、また、全国的な自治体組織により国に対して制度の拡充等の要望をしておりますことを申し添えいたします。</p> <p>以上でございます。</p>

斉藤会長	<p>よろしいですか。他にございませんか。 無いようですので、すいません、私から一つ。 尻岸内会館が雨漏りで使用できない事が何件かあったように聞いておりますが、どういう状況で、これからどうするのかお聞きかせいただきたい。</p>
工藤課長	<p>尻岸内会館の状況という事で、全般的にお答えします。 まず12月下旬に会館の事務室にある消防設備が雨漏りが原因で故障しました。消防設備の故障という事で、その設備の修理に係る期間、1月いっぱいとの事だったので、1月末まで休館としました。 その雨漏りの状況なんですけれども、雨漏りしている箇所が事務室、玄関ホール、集会室、調理場、これらの部屋に応急処置として天井裏に雨水の受け皿を設置し、消防設備や床に雨水があたらないようにしました。 それらの処置をした上で、消防設備の修理が1月中で終わり、特に雨漏りがひどかった調理室の清掃も終えたことから、現在は利用できるようになっております。</p>
斉藤会長	<p>4月でなくても使えるということなのか。</p>
工藤課長	<p>今は使用できます。</p>
斉藤会長	<p>調理場の方も。</p>
工藤課長	<p>若干、まだ雨漏りがする箇所がありますので、完全な調理となりますと難しいのですが、コンロでお湯を沸かす程度、お茶を入れる程度の利用でしたらお使いしていただくことは可能です。</p>
斉藤会長	<p>会館が使用できないという事で、葬儀もコミュニティセンターを使って2回くらいやった事があるんだけど、これからは使えるとの認識でいいのか。</p>
工藤課長	<p>ただですね、完全な料理までしたいというのであれば、難しいかなと思いますので、葬儀に関しましても、その葬儀の仕方というのでしょうか、になりますね。</p>
斉藤会長	<p>大丈夫であればいいけども。</p>
工藤課長	<p>賄い全般となりますと、難しいと思いますが、今、お弁当、お味噌汁出す程度の調理が多いと聞いてますので、それであればご利用いただけるかなと思います。</p>
斉藤会長	<p>完全に直すという計画はないの。</p>
工藤課長	<p>完全に直すとなると、役所で予算もあるものですから、当面の応急処置として、屋根に防水のウレタンを塗ることを考えております。ただウレタンを塗るにしても、この天気ですので、やはり雪が解けて、雨が降らない日を選んで、かつウレタンが乾かす気温を確保できる日に作業をする予定はあります。</p>

	<p>す。それを、天候次第ですけれども、3月か4月にできたらなど予定しております。あくまで応急処置ですので、根本的に屋根の改修が必要かなと思いますが、設計などを担当している本庁の建築担当部局にも相談して、雪解けを待って現地を見てもらい、どういう方法が最低限の費用で、なるべく長く使っていただけるように改装改築できるのかな、という事をこれから相談するように打ち合わせしております。</p>
斉藤会長	<p>支所長、今、課長の答弁があったわけですがけれども、あその場所というのは、色々な災害に対しての避難場所になっている訳ですから、是非その辺を心に留めておいて、早急に完全に直すように、本庁の方をお願いをしていただきたいなと思っているんです。</p>
小笠原支所長	<p>この度の尻岸内会館の使用がしばらくできなかつたことについては、本当に皆様にご迷惑をおかけしたと思っております。</p> <p>管内にある地域会館の中では、そんなに古い施設ではないなと思いつつも、なぜか雨漏りがというのが今までの会館で起きていた現象であります。葬儀をはじめ、税申告など色々な場面で使用される地域会館だという事は十分に理解しておりますので、まずは、課長から説明させましたが、緊急的な修繕を行なう。また、数年経つと同じような事が起きるので、きちんと建設関係の専門家にもご相談差し上げたなかで、必要な予算を今後確保して参りたいと市役所の財務部局にかけあっている所でございます。もうしばらくお時間頂戴できればと思います。</p>
鳴瀬委員	<p>今、古武井会館も葬儀使えないんだよね。どういう事情なんだろう。</p>
工藤課長	<p>古武井会館については、消防設備関係なんですけれども、下に敷いてある絨毯、カーペットが消防法の基準に適合していない状態だという事で、特に冬期間は使えないという事になっております。</p>
鳴瀬委員	<p>それは絨毯取り換えた訳ではないでしょ。</p>
工藤課長	<p>いつ、消防署の指摘があったのかは、今資料がないのでわからないんですけれども、そういう指摘があったということで、古武井会館につきましてはご利用いただけない状況です。ご不便おかけしますけれども、近くにコミュニティセンターがございますので、そちらをご利用いただければと思います。</p>
斉藤会長	<p>他にございませんか。</p> <p>発言が無いようですので、議題の(3)はこれで終了させていただきます。ありがとうございました。</p>

5 その他	
齊藤会長	<p>それでは次第の5 その他に移ります。 はじめに、事務局から何かございますでしょうか。</p>
田中課長	<p>それでは、その他という事で、東部地域まちづくり懇談会について、ご説明させていただきたいと思えます。資料「(仮称)東部地域まちづくり懇談会の開催について」をご覧くださいと思います。</p> <p>この懇談会に関しましては、地域審議会の終了後における地域の皆様のご意見などを伺う場として、懇談会を開催したいという話をこれまでもさせていただいております。</p> <p>その間色々と協議をしてきた結果、参集範囲や進め方など一定程度決まりましたので、ご報告させていただきたいと思えます。</p> <p>資料に沿って説明させていただきます。</p> <p>1番目の目的ですね、合併した4地域、戸井、恵山、榎法華および南茅部地域に共通する課題や地域の振興などについて議論し、地域のまちづくりにつなげることを目的として、懇談会を開催したいと考えております。</p> <p>開催期間なんですけれども、令和2年度から令和6年度の概ね5年間としております。</p> <p>参集範囲なんですけれども、4地域の団体からの選出者と4支所長を含めて20人程度と考えておまして、構成団体としては、まず地区の町会連合会から出していただくと。次に、産業関係という事で、漁業協同組合。戸井、えさん、南かやべがあるんですけれども、えさん漁協からは、恵山地域、榎法華地域からそれぞれ1人ずつという事で、全部で4人。経済関係は、函館東商工会ということで、4地域で1つなんですけれども、これも各地域から役員が出られているという事で、4人ほど出していただくと。次に福祉関係団体という事で、民生児童委員協議会から26から29方面各4地域ですけれども、出ていただきたいと思いますと考えております。</p> <p>その下に、分科会と記載しております。読みますと、「懇談会は懇談事項に関し、より具体的で専門的な議論を行うため、必要に応じて上記の団体や市の実務者のほか、有識者等を参集範囲とする分科会を開催できるものとする。」としました。これは何故かという、懇談会は年2回程度と考えているんですけれども、時間的な制約の部分もありますし、実務者レベルでの分科会というものを設置することで、より具体的で議論が深まるのかなと考えております。</p> <p>一番下に全体像という事で、図をご覧くださいと思います。左側に懇談会ということで、丸印が参集範囲となっております。そして、先ほど申し上げましたその団体から選出いただいた方と各支所長、その他にテーマによる関係者、企画部も含めてなんですけれども、関係の方にも参画していただくと。この懇談会の中では、まずは懇談事項の設定という事で、何について議論していくのか、テーマを決定していただいて、それについて分科会が必要あるかと決めていただいて、必要であれば右側の分科会という事で、実務者レベルで具体的な課題の解決策や振興策の協議・検討をしていただくと。そのある程度議論していただいた内容を、懇談会に戻していただいて、それを基に懇談会でまた色々議論していただくと。取りまとめや方針の決定などを懇談会でやっていただいて、実際に振興策の取り組みというふうに進めていきたいと考えております。</p>

	<p>この懇談事項、いわゆるテーマなんですけど、4地域に共通する課題という事で、まずは例として挙げていますが、地域産業の振興という観点から、観光振興の部分で周遊観光やイベントなどと書いていますが、こういう部分、今現在ですと、南茅部の縄文遺跡の関係がございますので、それらも含めたなかで観光振興全体を議論していただくと。もう一つは、先ほどから何回も出てますけれど、人口減少また高齢化というものが進んでいく部分がありますので、福祉関係には様々な課題があると思いますので、これらも懇談会の場で議論していただければと、今は考えております。</p> <p>いずれにしても、令和2年度の早い段階で、まず第1回目を開催したいと考えている所です。</p> <p>以上でございます。</p>
斉藤会長	ただ今の説明に対して何か質問ございますか。
成田委員	開催場所って持ち回りでやるのか。それとも市役所本庁でやるとか考えているのか。
田中課長	<p>確かに気になる場所かと思えます。</p> <p>4地域全体で1つの懇談会という事なので、当然1か所になるんですけども、全体の移動距離を考えた時に、まだ決定はしてないんですけども、恵山か榎法華というのが、一番いいのかなと考えております。</p>
斉藤会長	<p>他にございますか。</p> <p>それでは、小林産業建設課長どうぞ。</p>
小林課長	<p>資料はお配りしてはいなかったのですが、地熱発電事業の現状について、皆様にお知らせをしたいと思いますと思っております。</p> <p>前回の地域審議会でご質問いただいております、その際に事業者から連絡などがありましたら、皆様にお知らせしますとお答えしておりました。</p> <p>先日、1月23日に事業者主催の「函館市恵山地域地熱資源開発協議会」が開催され、その中で事業の現状が報告されましたので、ご連絡したいと思います。なお、資料につきましては、事業者の方で取扱注意となっておりますので、諸般の事情を鑑みまして資料を添付しておりませんので、ご理解ください。</p> <p>内容につきましては、これまでの掘削調査の報告と今後の取り組みという事でございました。</p> <p>はじめに、報告事項といたしまして、昨年の6月から12月に掘削調査を行った井戸に、調査の結果、地熱資源が期待できる270℃以上の熱源が確認できたとのことでした。しかし、発電事業に利用できるか確認するためには、実際にこの井戸から蒸気を噴出させ、圧力、量、性状、これは酸が強いだとかの性状です、あとは安定性などの確認が必要となりますが、この確認を行う際には、大量の熱水が発生するという事で、この熱水を再び地下に還元させる井戸を確保する必要があるとの報告でございました。</p> <p>続いて今後の予定ですが、この還元する井戸の掘削予定という事です。まずは、掘削予定地の地ならしなどの造成工事を行った後に掘削を開始し、秋口以降に蒸気を噴出させます噴気試験を実施する予定とのお話がありまし</p>

	<p>た。この噴気試験の際には、見学する機会を設けたいというような話もされていたとの事でございます。今後の予定については、以上でございますので、皆様にお知らせします。</p>
鳴瀬委員	<p>その事業者は北海道の他地域で地熱発電をやっているのですか。</p>
小林課長	<p>道内では恵山が初めてとなります。</p>
斉藤会長	<p>よろしいですか。 発言が無いようなので、この辺で終わらせていただきます。 以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。 冒頭でも申しましたとおり、地域審議会は今回をもちまして終了となります。今までの地域審議会を振り返りまして、これまでの感想や今後、市に期待することなど、なんでも結構ですので発言をお願いします。 先ほども色々、これからの将来にむけての要望等を述べられましたけれども、まだ何かありましたら。</p>
岸本副会長	<p>それでは一言お礼を。 まずは、皆様長い間お疲れ様でした。皆さんのおかげで、有意義な時間を過ごすことができました。どんな小さな事も面と向かって答弁していただき有難いなって。これから先、そういう事を伝える場が無くなるし、電話での対応だとじっくりこない事があるのかな、とか。残念ですけど、何もわからない私がちょっとでも恵山の事を知ることができて。 これからも、協力できる事があれば、このまちの為にできる事があればやっていきたいなと思っています。 本当に今日までありがとうございました。</p>
斉藤会長	<p>鳴瀬委員は、いかがですか。</p>
鳴瀬委員	<p>むなしいと思う。はっきり言って予算措置がないから。言いつばなしって感じ。西尾さんから工藤市長になって、西尾さんの時は少ないけど支所長の権限のある予算がありました。それであれば、まだいいんだけど、予算措置の無いものを、ただ言って、こんな言い方は悪いかもしれないけれど、それをただ聞いておく、むなしかったなという思いがあります。</p>
斉藤会長	<p>今、鳴瀬委員から、むなしかったな、という感想をいただきましたが、個々にそれぞれ思う事があると思うんですけども、これから地域の問題点等々、どんな形で支所長の方まで届けたらいいんだろうかな、という考えを皆さん各自持っていると思うので、もし支所長に考えがあったら、一言お聞かせ願いたいと思います。</p>
小笠原支所長	<p>ご質問ありがとうございます。 地域審議会の終了に伴って、皆様方の声を恵山支所としてどのように捉えて反映していくのかという質問だと思います。 支所としまして、今後の姿勢を問われていると受け止めております。 恵山支所といたしましては、これまでも日々の業務をはじめ、各種会議で</p>

	<p>あつたり，懇談の場であつたり，様々な機会に地域の皆様の声をお聞きしながら，真摯に受け止め，可能な取り組みに関しては，できる限り地域に還元してきたと考えております。</p> <p>今般，地域審議会の終了に伴いまして，地域の声が今後の市政運営に届きにくくなるのではと感じているかもしれませんが，決してそのような事はございません。我々職員，これまで以上に地域の声をお聞きできるように，意識の醸成にも努めていきますし，環境づくりにも引き続き取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>私としましても，この事を最優先課題として受け止めまして，支所職員一丸となりまして，地域の課題の解決に向けて鋭意努力して参りたいと考えておりますので，引き続き皆さんのお力をお借りしたいと考えておりますので，どうぞよろしくお願いいたします。</p>
斉藤会長	<p>他に何かございませんか。</p> <p>無ければ，今，小笠原支所長からいただいた言葉で締めたいと思いますが，よろしいでしょうか。</p> <p>（「異議なし」の声）</p>
斉藤会長	ありがとうございます。
小笠原支所長	改めて私から委員の皆様にお礼を申し上げたいのですが，よろしいでしょうか。
斉藤会長	支所長，お願いします。
小笠原支所長	<p>地域審議会の終わりにあたりまして，委員の皆様一言お礼を申し上げたいと存じます。</p> <p>本日，ご参列の委員の皆様におかれましては，この2年間にわたり，当地域の掲げました合併建設計画の執行について，様々なご意見やご提言をいただき誠にありがとうございました。</p> <p>思い起こせば，平成16年12月の合併から15年が過ぎました。元号も平成から令和へと変わり，この間，世の中では色々なことが起こり，当時はこんな現代を誰も予想できなかったのではないかと思います。</p> <p>当恵山地域におきましても，合併当時の人口が4，510名，この15年で1，700人減少しまして，昨年末で2，810名となりました。少子高齢化が進む中，地域の児童数が減少するばかりでなく，生産人口も減少に歯止めがかからない状況にあります。主要産業である水産業に関しても，地球温暖化や海水温の変化，この頃では漁獲量も落ち込んできておりますし，獲れる魚種も少しずつ変化が見られるといった状況でございます。</p> <p>ここまでは，暗い話ばかりなんですけれども，15年経って変わらないものもあると思っております。自然あふれる活火山の恵山でありましたり，海岸の風景，また，素晴らしい泉質の温泉，夏のお祭り，そしてつつじまつり。こういう地域のイベントでの賑わいや活力。地域で活動する皆様達，住民のマンパワー，これも変わらないと思っております。あと，恵山が誇る伝統や文化，これらも変わらないものだと思っております。</p>

15年の時が経ちまして、恵山地域の住民の一人ひとりが皆違った思いや感想があると考えてますけれども、私自身といたしましては、まちの歴史というものは、その時代時代でそこに暮らしている方が築き上げていくものだと考えています。直近の函館市で申しますと、この平成の大合併の前は、昭和48年に旧亀田市と函館市が合併いたしました。その前は、昭和41年の旧銭亀沢村でございました。合併を経験しますと、初めは違和感を感じるものなんですけれども、不思議なものでいつの間にか新たに形成された1つのまちで住民が暮らしていつか活動が行われるというのが当たり前になりまして、次の世代に子どもが生まれ、また暮らしが始まると。こうなりますと合併したという記憶が薄れて参るものでございます。私自身も子どもの頃、亀田市に住んでおりました、函館市に変わって生活しましたが、当時の生活の違いというものは、ほとんど亀田と函館では合併した後もございませんでした。

少し長くなりましたが、感じ方は人それぞれだと思います。我々行政といたしましても、合併した事で暮らしの質が低下しないよう、むしろ質が向上したと言われるように努力していかなければならないと考えております。15年で何が向上して、何が低下したのか、これらもきちんと検証しながら今後住民のサービスに反映していければと考えております。

市町村合併の特例に関する法律に基づきまして設置した、この地域審議会は終わりますけれども、これからも様々な機会を捉えまして、皆様の声を良くお聞きしながら地域の為に色々な行政の活動を進めて参りたいと考えております。改めまして、この間、地域を代表しましてご尽力いただいた皆様方に敬意を表するとともに、これからも変わらぬご支援やご指導を賜りますようお願い申し上げます。私からの感謝とお礼の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

斉藤会長

支所長、ありがとうございます。

それではこれもちまして、令和元年度第3回函館市恵山地域審議会を終了いたします。

ありがとうございました。

6 閉 会 (16時33分)